

施策 1-4-⑬

最短でつなぐ避難経路の確保

【取組の概要】

短時間で津波の到達が懸念される地域では、より早く避難するための避難経路最短化の工夫が必要です。地方公共団体は、住民や学校関係者等と共に最短な避難経路の確保を行う必要があります。

【計画、整備にあたっての着眼点・留意点】

- ・小中学校やその他公共施設等のうち、特に人が多く集まる施設では、最短で避難できる経路を検討し、施設整備することが必要です。

【事例】

〇岩手県大船渡市の取組（再掲）

・小学校に整備した避難スロープ

- ・小学校の2階から高台へ続く避難用スロープを整備し、東日本大震災では迅速な避難につなげました。

避難路の取り組み(大船渡市 越喜来地区)

「越喜来(おきらい)湾に近い越喜来地区は、死者・行方不明者200人以上を出すなど大被害を受けた。同湾から約250メートルの位置にあり、海拔0メートル地帯に立つ市立越喜来小学校も、3階建て校舎が津波にのみ込まれた。だが、児童と教職員は全員無事。平成22年10月に完成した避難用スロープが迅速な避難に役立った。」

11日午後2時46分、1階職員室にいた遠藤耕生副校長(49)は激しい揺れに「津波が来る」と感じた。校内には児童71人と教職員13人がいた。

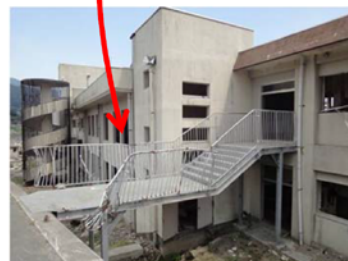
遠藤副校長は職員室を飛び出して「収まったら避難だ」と叫び、2階にあるスロープの鍵を開けに走った。スロープは長さ10メートル、幅約2メートル。2階から高台に通じる市道につながっている。」

「以前は海側の校舎出入り口を通り、校舎を半周して市道に出ていた。市は「高台へ避難するのに時間がかかる」との保護者らの声を受け、約400万円かけてスロープを造った。校舎から同駅までの距離は約250メートルから約110メートルに、所要時間は平均6分台から3分台になった。巨大地震2日前の9日に、大船渡市で震度3を観測した地震で津波注意報が出た際も、このスロープを使って避難した。」

(出典)「読売新聞 2011年3月29日」



越喜来小学校のスロープ(非常通路)の位置



児童らが利用した避難用スロープ